

地学 2 - 0 1 (小学校低学年用)

1



植物 2 - 0 1 (小学校低学年用)

1 アベマキ

瀬戸内丘陵に多い夏緑高木。9月下旬から10月にドングリを落とします。クヌギに似ていますが、葉裏に毛が多いため白く見えます。

2 トウカイコモウセンゴケ

丘陵地の湿地に生える多年草。東海地方から中国地方にかけて分布し、倉敷市種松山が西限となります。同じ食虫植物のモウセンゴケもしばしば同じ湿地に生えますが、トウカイコモウセンゴケの花がピンク色なのに対し、モウセンゴケの花は白色です。

昆虫 2 - 0 1 (小学校低学年用)

1 カブトムシ

(ほかにも多数正解あり)

動物 2 - 0 1 (小学校低学年用)

1 せびれ

スナメリは、国内では瀬戸内海や内湾に生息している小型の歯クジラ（ネズミイルカ科）の仲間です。背びれがないのが大きな特徴です。展示標本では見にくいのですが、背中の中央線上に感覚器官と考えられる小突起が無数に並んでいます。正面から見ると、ふんきこう噴気口が中央でなく右側にかたよっていることがわかります。

2 くじら や いるか の なかま

昔の日本人はクジラやイルカを魚の仲間と考えていたようです。えんすいけい円錐形の歯をもつものを歯クジラ、ひげ状の歯をもつものをヒゲクジラに分類します。一般に、大型で吻端ふんたんがとがっていないものをクジラ、小型で吻端がとがっているものをイルカと呼びますが、両者に厳密な区別はありません。

地学 2 - 0 2 (小学校高学年用)

1

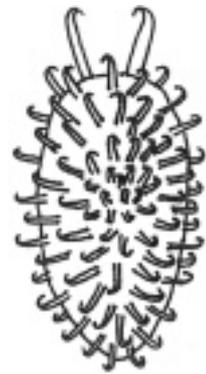


2 石灰岩は主に(**生物の遺骸**^{いがい})がたい積して固まってできた岩石で、雨水などで少しずつ溶け、表面には(**カレン**)と呼ばれる溝状のくぼみができる。

植物 2 - 0 2 (小学校高学年用)

1 人や物にくっついて

果実の表面にあるとげの先が釣り針のように曲がり、動物や人、物にくっつきやすくなっています。オオオナモミは北アメリカ原産の帰化植物で、1929年、国内では岡山県で最初に記録されました。今では昔からあるオナモミが姿を消してしまい、オオオナモミばかりになっています。



2

ホテイアオイ	●	●	南アメリカ
ボタンウキクサ	●	●	熱帯アメリカ
オオカナダモ	●	●	南アフリカ

昆虫 2 - 0 2 (小学校高学年用)

1 (1) ヒョウタンゴミムシ

(ほかにも多数正解あり。ほかの解答例は第 2 展示室の「瀬戸内海」の標本箱をご覧ください)

(2) ショウリョウバツタ

(ほかにも多数正解あり。ほかの解答例は第 2 展示室の「岡山平野」の標本箱をご覧ください)

(3) ノコギリクワガタ

(ほかにも多数正解あり。ほかの解答例は第 2 展示室の「瀬戸内丘陵」の標本箱をご覧ください)

(4) オオムラサキ

(ほかにも多数正解あり。ほかの解答例は第 2 展示室の「吉備高原」の標本箱をご覧ください)

(5) ウスバシロチョウ

(ほかにも多数正解あり。ほかの解答例は第 2 展示室の「中国山地」の標本箱をご覧ください)

動物 2 - 0 2 (小学校高学年用)

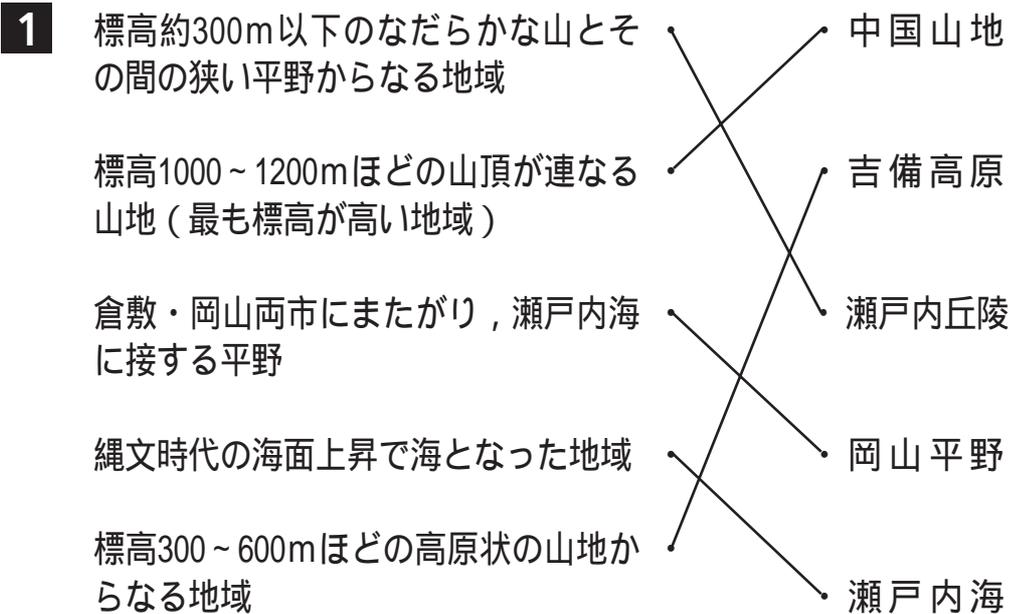
1 イタチの仲間

アナグマは、タヌキに似ていることからイヌの仲間、名前からクマの仲間と間違われることがありますが、イタチの仲間です。ムジナとも呼ばれます。

2 トンネルを掘る

アナグマは丘陵地から山地までの森林内にトンネルを掘って集団で生活しています。アナグマの前脚の爪は長くて鋭く、穴を掘るのに適しています。アナグマの名前は穴を掘ることから付けられたのでしょう。

地学2 - 03 (中学校用)



地学2 - 03 (中学校用)

1 植物が減少する要因はさまざまで，多くの要因が複合的に作用していることもあります。環境省版レッドデータブックでは，開発行為，園芸採取，自然遷移が減少の3大要因とされています。展示物から解答を得られるのは次のとおりです。

【開発行為】オグラセンノウ，ヤチシャジン，ミコシギク，ゲンカイツツジ，イワヤクシソウ，タコノアシ，サクラソウ，イヌノフグリ

【園芸採取】オグラセンノウ，ゲンカイツツジ，サクラソウ

【自然遷移】ヤチシャジン，ゲンカイツツジ，タコノアシ，サクラソウ，イヌノフグリ

2 展示をしている植物はほんの一例に過ぎませんが次のとおりです。

【減っている植物】

オグラセンノウ，ヤチシャジン，ミコシギク，ゲンカイツツジ，イワヤクシソウ，タコノアシ，サクラソウ，イヌノフグリ，ツメレンゲ

【増えている植物】

ムシトリナデシコ，ノハラナデシコ，コモチナデシコ，サボンソウ，ヒメジョオン，オオキンケイギク，マンテマ，ベニバナセンブリ，オランダミミナグサ，オオイヌノフグリ，シロツメクサ，ヨウシュヤマゴボウ，コニシキソウ

1 展
2 展
3 展
4 展
他

地学

植物

昆虫

動物

総合

小低
小高
中
高

昆虫 2 - 0 3 (中学校用)

1 ゲンゴロウ

(ほかに多数正解あり。ほかの解答例は第2展示室の「自然は変わる」, 「岡山県で減っているいきものと増えているいきもの」をご覧ください)

2 アオマツムシ

(ほかに多数正解あり。ほかの解答例は第2展示室の「自然は変わる」, 「岡山県で減っているいきものと増えているいきもの」をご覧ください)

動物 2 - 0 3 (中学校用)

1 ドジョウの仲間

アユモドキは若い時期にはしま模様がはっきりしていますが、十分に成長するとそれが消え、体型がアユに似てきます。これがアユモドキの名前の由来です。口のまわりにはドジョウ同様にひげがあります。

2 穴、石組み護岸のすき間 (表現は自由)

アユモドキは石や石組み護岸のすき間をよく利用します(穴^{けっ}居性^{きよせい}といいます)。

3 産卵に利用する、梅雨ころ増水によってできた水たまりの代わり (表現は自由)

アユモドキは梅雨ころ増水によってできた水たまりで産卵します。水田はその代替地と考えられます。

地学 2 - 04 (高校用)

- 1** ・石灰岩は主に (生物の遺骸^{いがい}) が (たい積) して固まってできた岩石です。
- ・石灰岩は (炭酸カルシウム) を主成分とし，雨水などで少しずつ溶けていきます。
- ・石灰岩が分布している地域は，雨水による溶食作用がはたらいて，溶け残った岩塊^{がんかい}が点在している (カレンフェルト) と呼ばれる地形となります。
- ・石灰岩の岩塊の表面に溶食作用でできた溝状のくぼみを (カレン) といいます。

植物 2 - 04 (高校用)

- 1** 岡山県の石灰岩台地上には，アカマツ，アベマキ，コナラ，ナラガシワなどからなる二次林が広がっています。スダジイとタブノキは暖帯の照葉樹林を構成する主要樹種，ブナは温帯の夏緑樹林を構成する主要樹種，ハイマツは寒帯の低木林を構成する主要樹種です。

2 春植物

外国ではスプリング・エフェメラル (春の妖精) と呼ばれることもあります。阿哲の石灰岩台地上では，ほかにニリンソウ，セツブンソウ，ヤマブキソウ，ホソバナコバイモ，キバナノアマナなどが見られます。

昆虫2 - 04 (高校用)

1 ゲンゴロウ：農薬・護岸工事などに加え，外来魚などによる捕食圧を受けて姿を消したと考えられる。

(ほかにも多数正解あり。ほかの解答例は第2展示室の「自然は変わる」，「岡山県で減っているいきものと増えているいきもの」をご覧ください)

動物2 - 04 (高校用)

1 アメリカ (北アメリカでも可)

オオクチバスはスポーツフィッシング用の魚として1925年に北アメリカから移入されました。1970年代から各地に放流され，現在ではほぼ全国に広がっています。

2 在来種

オオクチバスは肉食魚で，繁殖力が強く，日本の自然に昔からすんでいる在来種の脅威となっています。

3 (皆さんが日本の自然環境保全を考えて自由に書いてください)